

## ■（145）「他人事にしない」—— 胸に響いた旧知のテレビ記者の姿勢

不思議な感じだった。旧知の民放テレビ記者が目の前の演壇に立っていた。事件や災害をめぐる競い合った敏腕記者が、企業の防災担当者らに災害を放送する意味や心がけを語る。自らの経験とも重なる話に共感しつつ、一節が胸に響いた。「他人事にしない」。

勤務する報道部門の壁にはいくつかの遺影が掲げられているという。1枚は事件取材を共にした後輩記者。山中のヘリ墜落事故の現場に向かったまま行方不明になった。翌朝の発見で受けた連絡は「心肺停止」。長年の取材で何度も耳にした表現だった。消防のヘリで遺体として搬送される映像を見ても、現実を受け入れられなかった。犠牲者の先にいる人の心をあらためて強く意識した。その思いを、東日本大震災でも忘れないようにと掲げたのが先の言葉だった。被災者の立場になってみると、「余震の震度より、まずは津波注意報を伝えよう。命を守るため」。その後、災害時の放送マニュアルを書き直したという。

振り返って新聞はどうか。津波で壊滅的な被害を受けた三陸の町に、発生直後から下宿生活をしながら今も取材を続けている同僚がいる。書いてくる記事を大切にしたい。(山)